

断熱スライディングドア

電気錠 (リモコンキー) 仕様

要保存

施工説明書

このたびは、弊社の商品をご採用いただきましてありがとうございます。
商品の組み立ておよび取り付けには、この説明書をよくお読みになり、正しく美しく仕上げてください。
ロックセットに同梱されている取扱説明書は、必ず施主様へお渡しください。
お渡しの際は、操作方法などを取扱説明書に従い、必ずお施主様へ説明してください。

- 本書には電気錠仕様になる場合の固有な事項 (AC電源部の設置、コード配線、通電金具の取り付け) のみを掲載しています。必要により各機器に同梱されている説明書も合わせてお読みください。
- 電気錠システム機器には工事店様用取り付け説明書が同梱されております。必ず電気工事店様へお渡しください。
- 本書には電気錠システムの作動不良時の対処方法が掲載してありますので、アフターサービスのために施工業者様で保管ください。

設置上の注意事項

- ここに示した注意事項は、商品の性能・機能および強度や安全性を確保する上での重要な内容です。施工にあたって必ずお守りください。
- 次の場所での設置は避けてください。
 - 湿気の多いところ。
 - 粉じんや腐食性ガス、可燃性ガスなどのかかるおそれがあるところ。
 - 暖房器具のそばなど、熱源に近いところ。
 - 製品仕様より温度が低くなるおそれのあるところ。 } 使用温度範囲: 0℃ ~ +55℃ (結露なきこと)寒冷地では作動しなくなるおそれがありますので、風除室などを設置してご使用ください。
- 室内アンテナ利用のテレビやラジオ機器から 1 m 以内のところ。
- お施主様・建築設計者様と十分に打ち合わせしてください。
 - 躯体内配線のため、内装工事終了後の変更は難しくなります。配線図を作成し、AC電源部の位置を決めてください。
 - 枠からACアダプターまでの配線距離はP 5をご参照のうえ、ACアダプターの取り付け位置を決めてください。
 - 心臓ペースメーカーなどをご使用の方は、念のため医療機器メーカー様にご相談ください。
 - 2世帯住宅などで、電気錠を2台設置する場合は、2台の電気錠に同一のリモコンの登録はしないでください。

組み立て・取付上の注意事項

- 指定の部品およびオプション品以外は使用しないでください。
 - ゴムパッキンなど、水密・防水部品は、施工説明書に従って取り付けてください。きちんと取り付けを行わないと、電装部品の故障の原因となります。
 - ねじ止め箇所は、指定してあるねじをすべて確実に止めてください。電動ドライバーは使用しないでください。ねじの締めすぎによる動作不良の原因になります。
- 枠・ドア本体・ロックセットは電気錠専用品となります。
 - 枠・ドア本体の中を配線が通るため、手動用の枠・ドア本体・ロックセットは使用できません。
 - 電動サムターンやACアダプターなどは電装商品ですので、雨などに濡らさないでください。電装部品の故障の原因になります。
 - コネクターの接続は”カチッ”という手応えがあるまでしっかりと差し込んでください。差し込みが浅いと作動不良の原因になります。

●電気配線工事は、内装工事をする前に必ず電気工事店様にご依頼ください。

- 電気配線工事は、電気工事士の資格が必要ですので、必ず電気工事店様へご依頼ください。誤った工事を行なうと故障や漏電の原因になり、火事や事故につながります。
- 電気錠の配線は、他の電気設備(照明器具など)の配線とは、100mm程度離して配線してください。
- 電気配線は、折り曲げたり、はさんだり、傷つけたりしないでください。漏電や感電の原因になり、火事や事故につながります。
- ドア本体付近の目立たない位置にAC電源部を設置してください。(P.6・7をご参照ください)

●組み立て、取り付け完了後、正しく作業が行なわれたこと、開閉作動や施錠解錠が正常に行なうことができることおよび使用上の不具合がないか確認してください。

●施錠した状態で枠とドア本体間等にすき間が生じていないか、ご確認ください。不具合がある場合は確実に建て付け調整を実施してください。(建て付け・ストライク調整方法は、枠同梱の別冊「施工要領書」をご参照願います)

●取り付け、配線工事完了後、通電確認を行ない、商品が正しく作動することを確認してください。

●引き渡し前に清掃を行ない、商品にゴミや異物が付着していないことを確認してください。

その他の注意事項

- 工事期間中のドア本体の施解錠は、コンストラクションキーを使用してください。
- 施主様へのお引き渡しまでは、以下の点をご確認ください。
 - ①電源が入っているか。
 - ②室内外からリモコン操作をした場合、上下連動して施解錠できるか。
 - ③室内外からキーまたはサムターンを使って、上下連動して施錠できるか。
(この場合、上部操作時下部も連動しますが、下部操作時上部は連動しません)
 - ④室内外からキーまたはサムターンを使って解錠できるか。
(この場合、上下の連動はありません)
- 施主様へのお引き渡しまでは、確認時以外の電気操作を控えてください。

設計・施工 工程モデル

建築工程 (在来工法)	100V電気錠システム施工工程
お施主様との打ち合わせ	<ul style="list-style-type: none"> ●AC電源部設置場所の決定 ●玄関枠・ドア本体設置場所の決定 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ※2世帯住宅などで、電気錠を2台設置する場合、2台の電気錠に同一のリモコンの登録をしないでください。 </div>
↓ 建築設計	
玄関枠・ドア本体取り付け工事 (工務店様)	<ul style="list-style-type: none"> ●玄関枠まわりの配線用木加工 ●玄関枠・ドア本体の取り付け (水平・垂直・対角を確認した上で取り付けてください)
↓ 電気配線工事 (電気工事店様)	
電気配線工事 (電気工事店様)	<ul style="list-style-type: none"> ●AC電源部の配線 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ※電気工事は「電気工事士」、電話工事は「工事担任者(1外線はアナログ第3種、2外線はアナログ第2種以上)」の資格所有者が行なってください。 </div>
↓ 内装工事	
試運転(納材店様)	<ul style="list-style-type: none"> ●仮設電源(AC100V)をつなぐ ●各機器が全て正常に作動するか確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ※作動確認時以外は電気錠に通電できないようにしてください。 </div>
↓ 竣工	
お引き渡し(納材店様)	<ul style="list-style-type: none"> ●お施主様への取り扱い方法および保証内容の説明 ●お施主様へ取り扱い説明書と保証書をお渡しください。

梱包内容

- 開梱時に種類と数量を確認してください(部品袋の内容にもご注意ください)。
- 商品に破損や異常がないか確認してください。
- 万一商品に破損や異常がある場合、または部品が不足している場合には、販売店または弊社までご連絡ください。

■ 枠同梱部品

部品名		数 量	付属部品
通電金具	WD7023	1	取り付け金具 1個 小ねじトラス M4×6 6本 バンドベース 2個 結束バンド 2本
中間配線コード(2.5m)	WD5894	1	—
穴ふさぎシール	WD7196	1	—
施工要領書		1	—

■ ロックセット

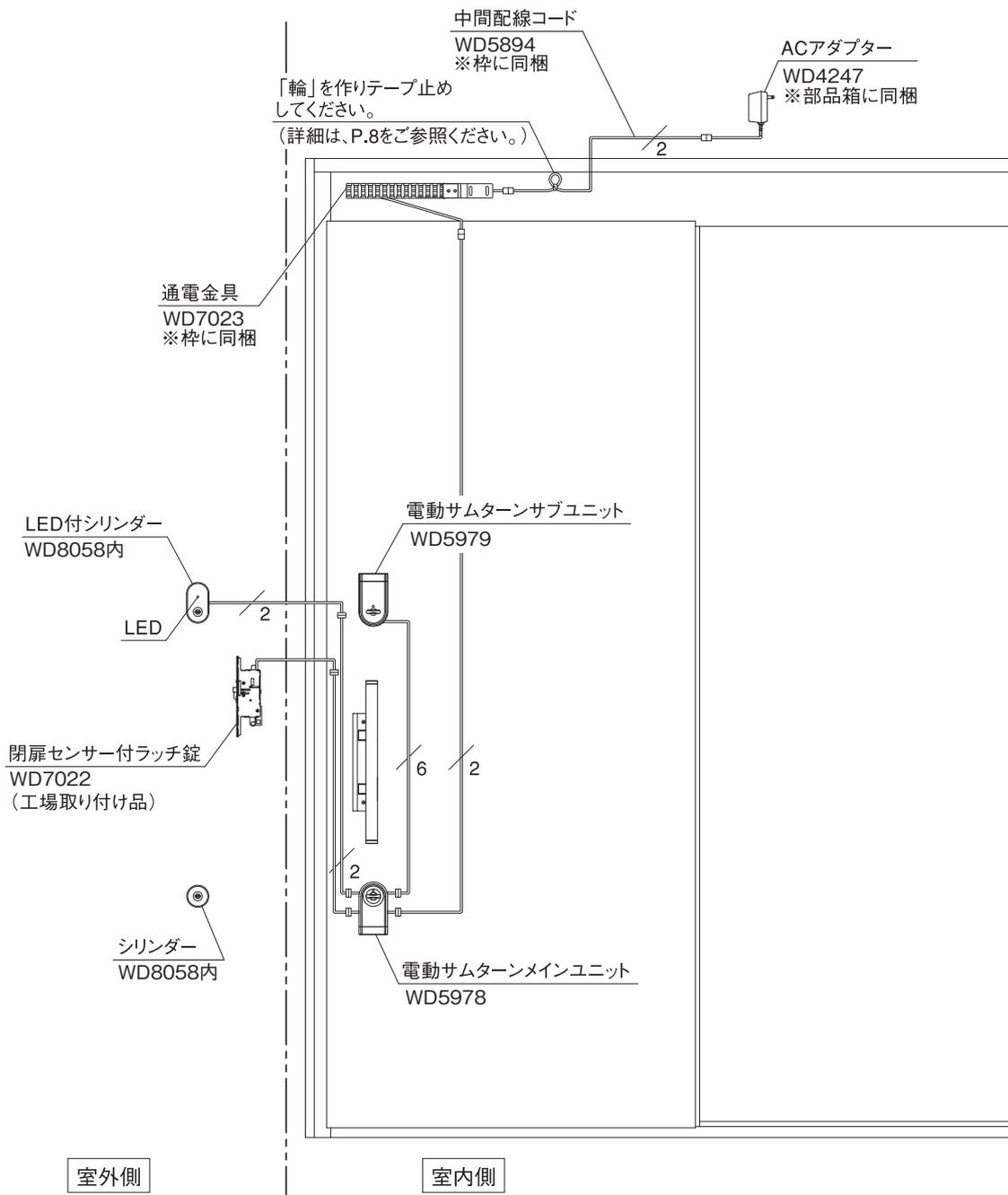
部品名		数 量	付属部品
シリンダー	WD8058	2(※1)	合かぎ手配説明書 1枚
オーナーキー		1	
標準キー		4	性能表示紙片 1枚
コンストラクションキー		3	
電動サムターンメインユニット	WD5978	1	小ねじなべ M5×20 4本
電動サムターンサブユニット	WD5979	1	
サムターン台座		2	小ねじなべ M4×12 3本
本締め錠ケース	WD5109	2	小ねじ皿 M4×16 4本
リモコンキー	WD5900	2	—
ACアダプター	WD4247	1	
取付説明書		1	
取扱説明書		3	

※1 1個はLED付

※2 オプションとして、リモコンキー、電源用ボックス、延長コード(5m)を用意しています。

電気錠システム構成図

●電気錠(リモコンキー)のシステム構成図は、下図のようになります。



■電動サムターン

電圧	DC12V
動作電流	500mA以下
暗電流	7mA以下
リモコン登録数	最大8個
受信距離	3m以上

■LED付シリンダー

電圧	DC9V
LED色	緑色

■リモコンキー

電圧	3V (ボタン型リチウム電池「CR1616」)
電池寿命	10回/日にて4年以上
暗電流	1 μ A以下
電波方式	AM変調方式
防水性	日常生活防水
送信距離	約3m

■ACアダプター

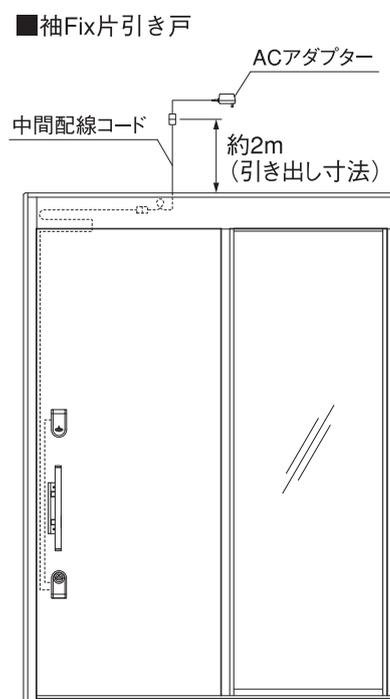
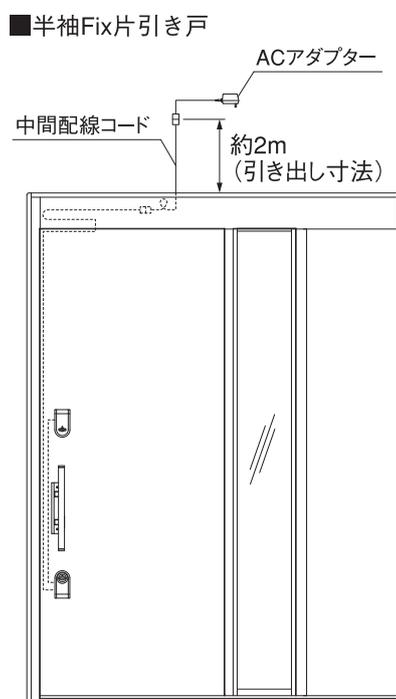
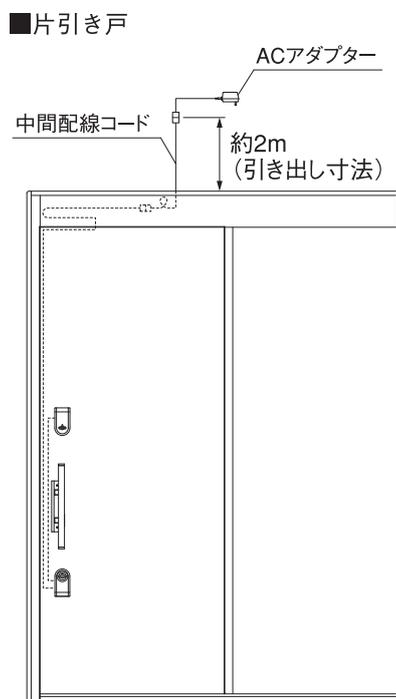
入力電圧	AC100V、50Hz/60Hz
出力電圧	DC12V
出力電流	850mA

AC電源部の設置

1 設置場所の決定

- 枠からの中間配線コードの引き出し寸法は、下図のようになります。下図の引き出し寸法を参照の上、AC電源部の設置場所を決定してください。(中間配線コードの枠内配線は、P. 8 をご参照ください)

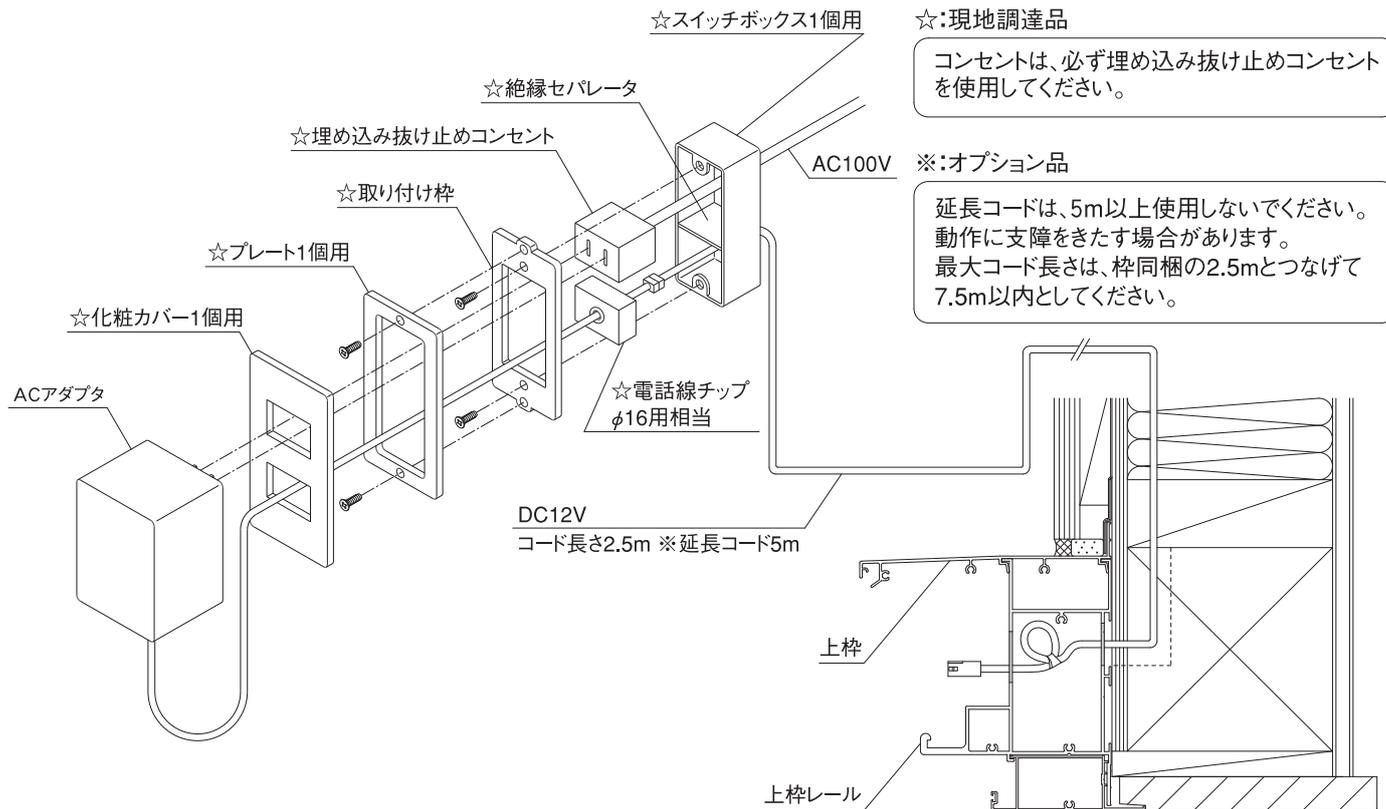
【内観図】



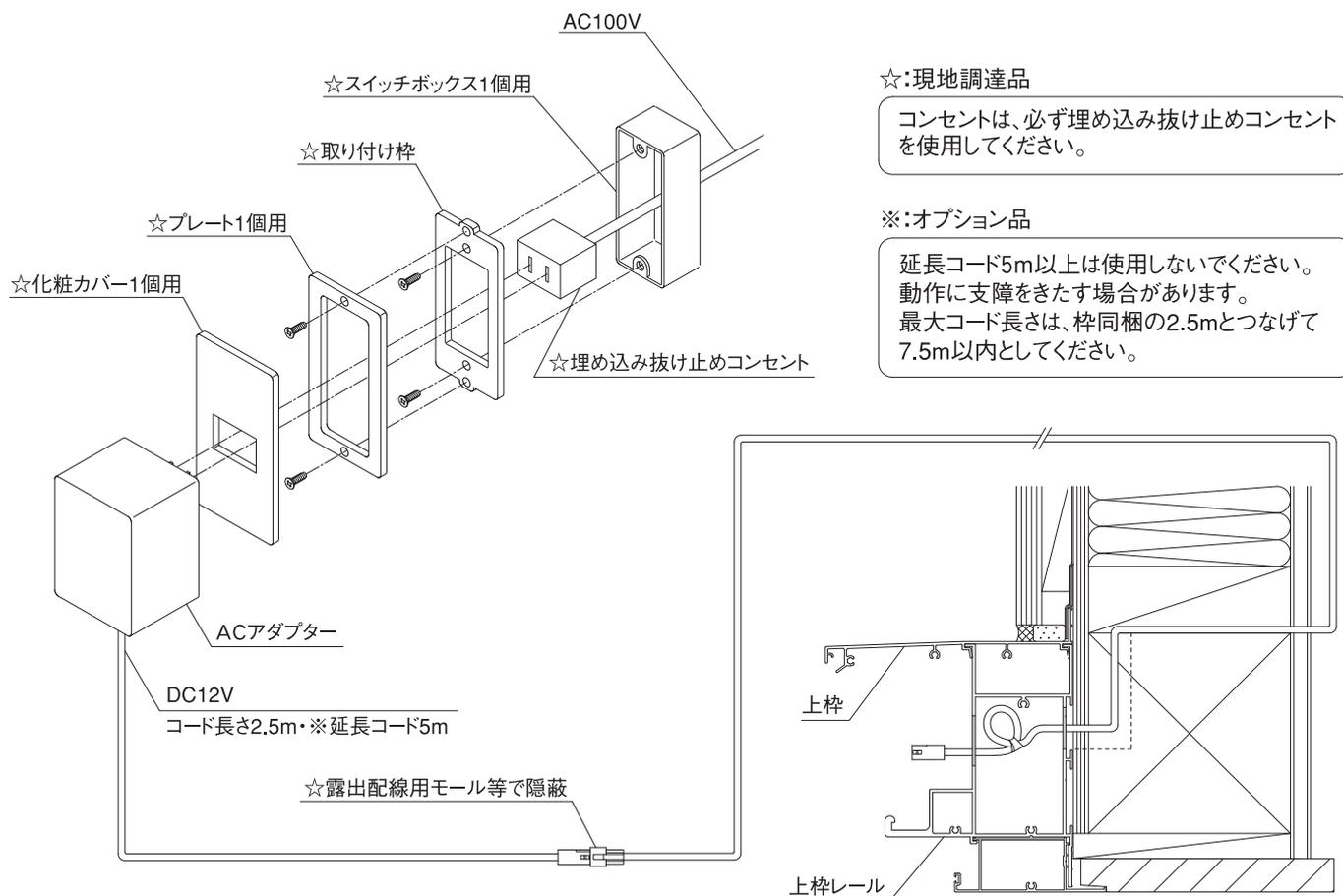
2 施工例

● 参考施工例に従い、扉付近の目立たない位置にAC電源部を設置してください。

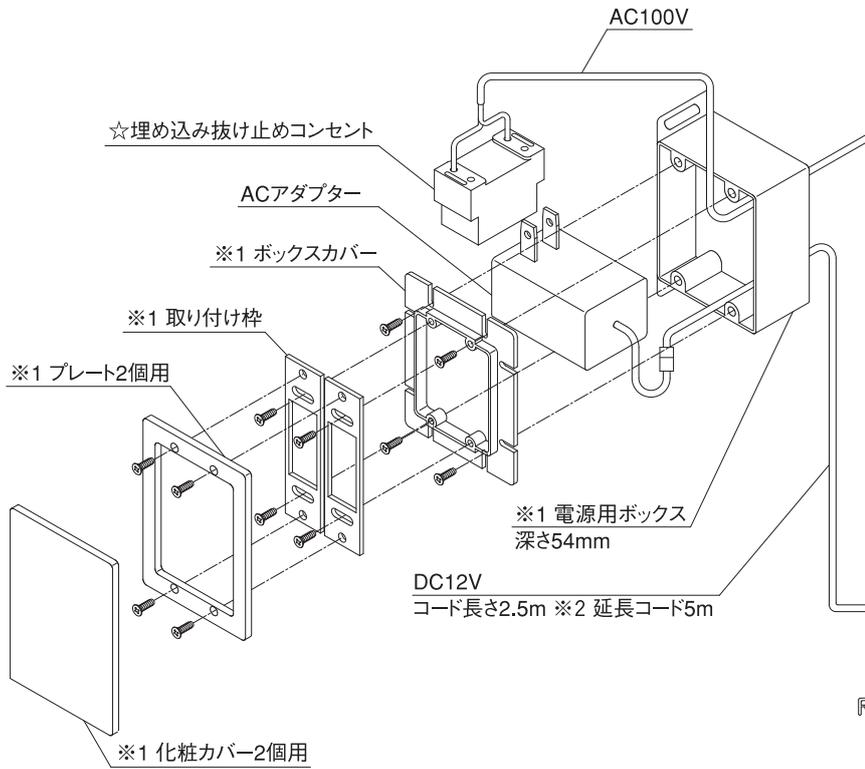
■ 施工例1 壁内配線例



■ 施工例2 壁外露出配線例



■施工例3 壁内埋設配線例



☆:現地調達品

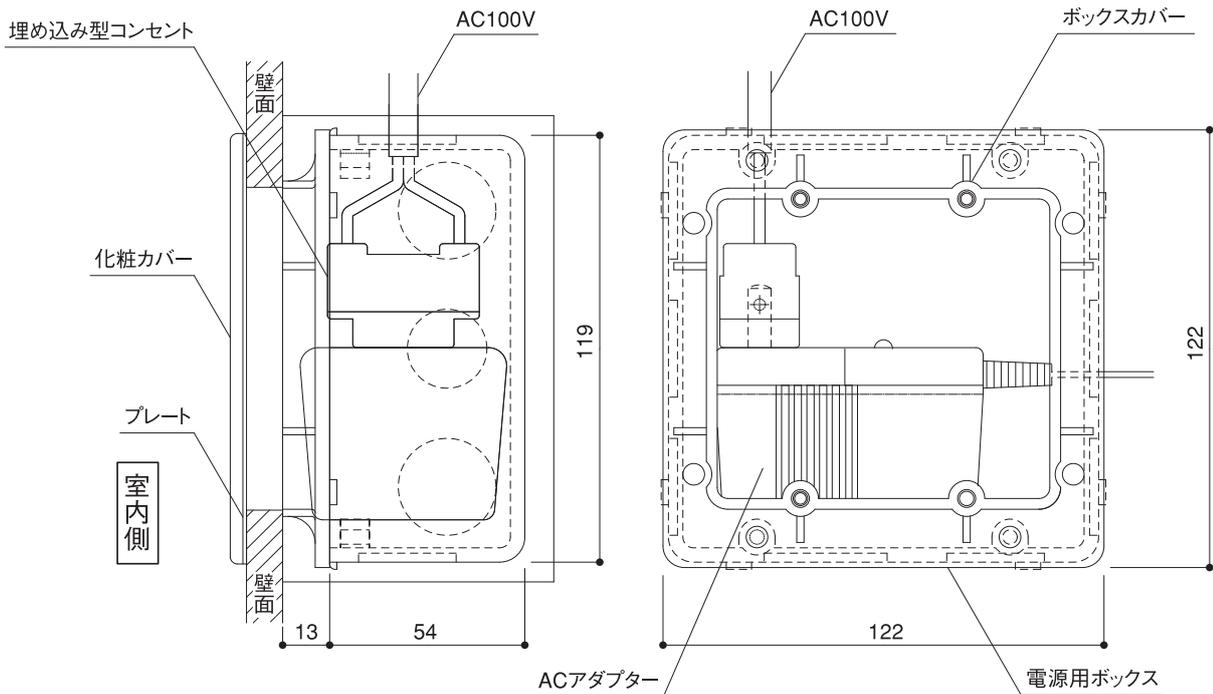
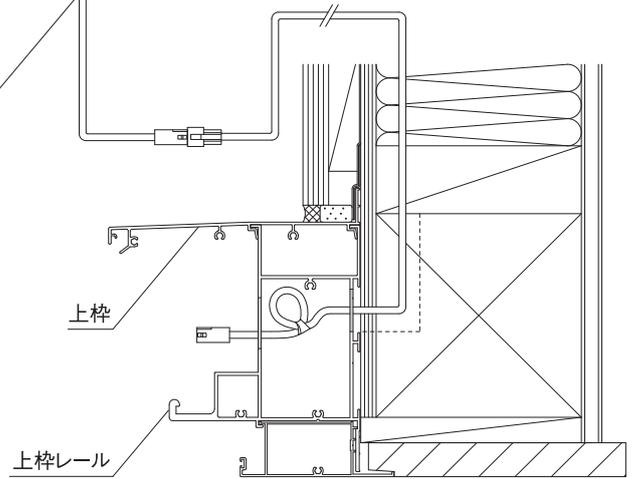
コンセントは、必ず埋め込み抜け止めコンセントを使用してください。

※1:オプション品

オプションとして電源用ボックスを本納まり用に用意しています。

※2:オプション品

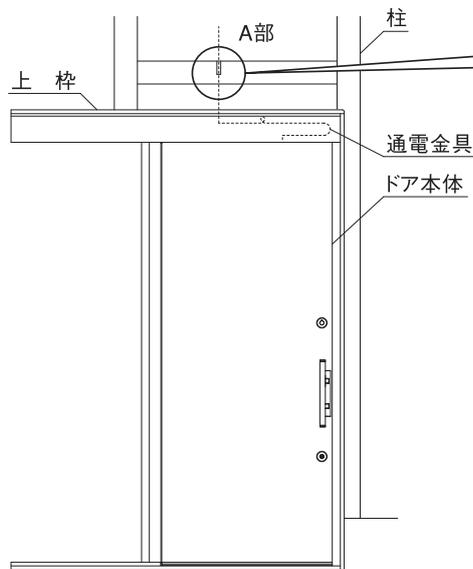
延長コードは、5m以上使用しないでください。動作に支障をきたす場合があります。最大コード長さは、枠同梱の2.5mとつなげて7.5m以内としてください。



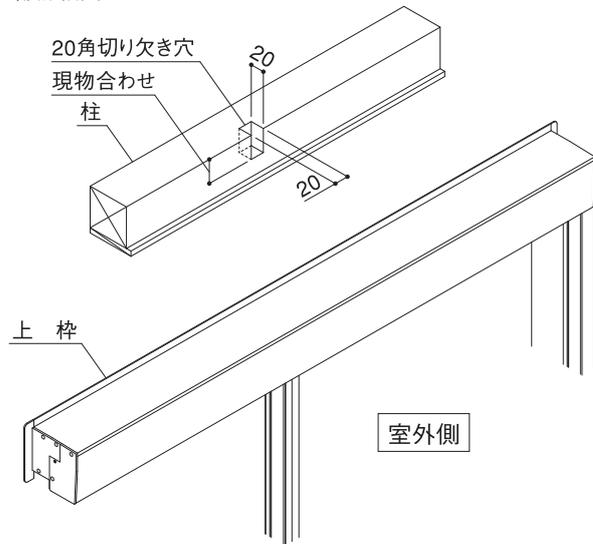
〈ACアダプターボックス内納まり図〉

1 配線コード通線部の作製

- 枠を躯体に取り付ける前に躯体に配線用の加工をしてください。
- 配線コード通線部を枠の配線位置に合わせて、現物合わせで躯体を加工してください。(A部詳細図)
- 加工の際、切り欠き穴が大きにならないよう注意してください。

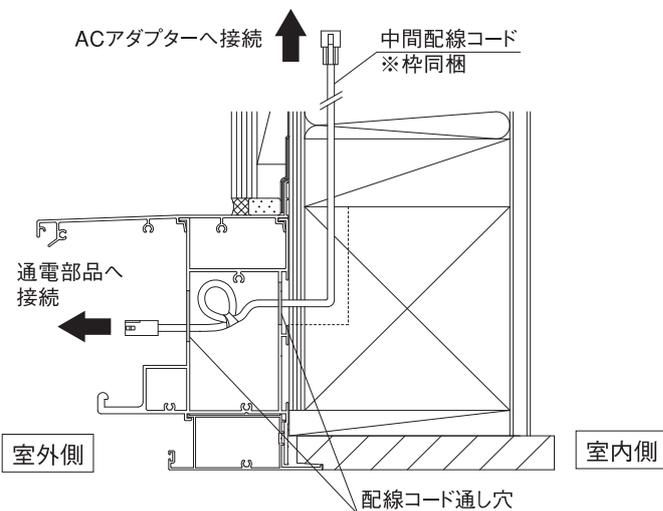
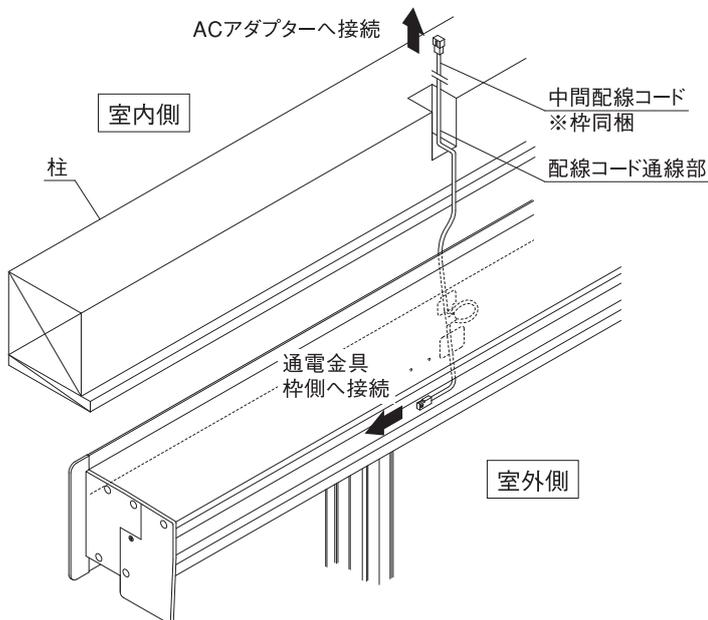


■A部詳細図

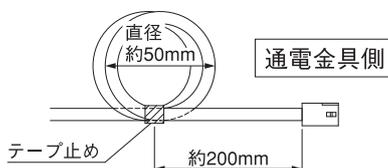


2 配線コード通線部へ配線および躯体への取付

- 枠の配線位置と躯体の配線コード通線部が合っていることを確認してください。
- 枠と同梱されている中間配線コードを上枠レールの配線コード通し穴に通してください。配線コードは、室外側の通し穴→室内側の通し穴の順に小さい方のコネクタから通してください。
ひもなどを配線経路にあらかじめ通しておき、端部にコネクタを縛り付け、引き込むと配線しやすいです。
- 躯体の配線コード通線部に、中間配線コードを通してください。
- 枠を固定してドアを吊りこんでください。



配線コードは、枠内で十分にたわませた状態で配線を行なってください。下図のようにコードで二重巻きの「輪」を作り、テープ止めしてください。配線に十分なたわみがないと、通電金具のメンテナンス時にコネクタがはずせなくなります。



配線コードの破損は、漏電や感電の原因につながります。配線コードが製品と躯体の間にはさまれたり、取り付けねじや釘によって配線コードにキズがつかないように注意して取り付けてください。

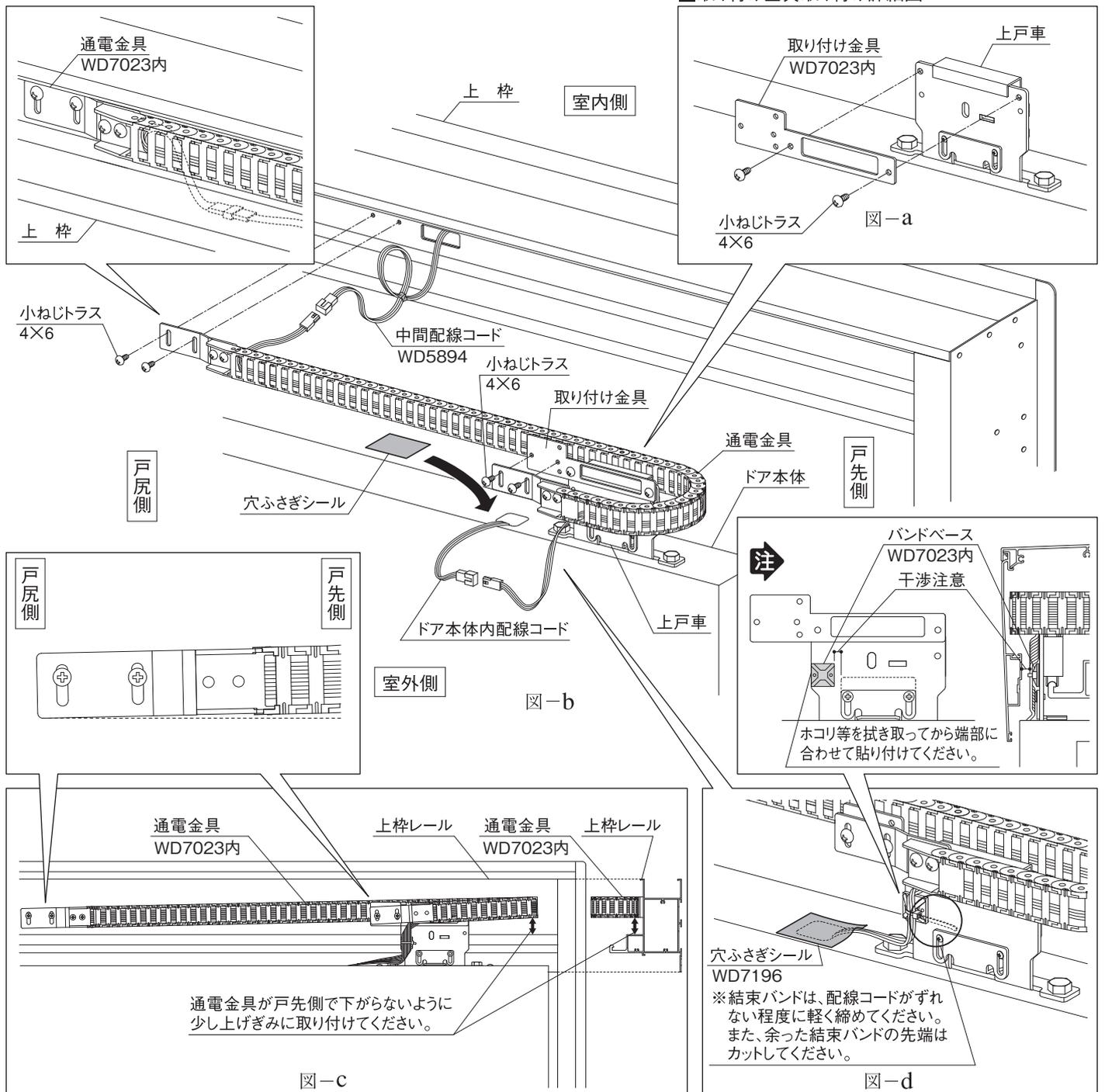
3 通電金具の取付

- 図-aのように、ドア本体を吊り込んだ後、戸先側の上戸車に取り付け金具を取り付けてください。取り付けの際には金具の向きに十分ご注意ください。
- 図-bのように、上枠から出ているコネクタ(中間配線コード)と枠側通電金具のコネクタを接続し、配線コードを上枠内に押し込んでください。
押し込み後、上枠に通電金具を小ねじトラス4×6でねじ止めしてください。
- 図-bのように、ドア本体から出ているコネクタ(ドア本体側配線コード)とドア本体側通電金具のコネクタを接続し、配線コードをドア本体に押し込んでください。押し込み後、上戸車に取り付けた金具に通電金具を小ねじトラス4×6でねじ止めしてください。

通電金具をねじ止めする際は、図-cのように取り付けねじが長穴の上方に来るようにし、さらに戸先側を上げて、枠に干渉しないように取り付けてください。枠に干渉すると、異音の原因となります。テープなどで仮固定すると、作業がしやすくなります。

- 図-dのように、戸先側の上戸車にバンドベースを貼り付けて、配線コードを結束バンドで固定してください。
 - 図-dのように、配線コードを押し込んだドア本体の穴を枠に同梱されている穴ふさぎシールでふさいでください。
- ※通電金具を取り付けた後は、ドア本体を開閉し、正常に作動するか確認してください。

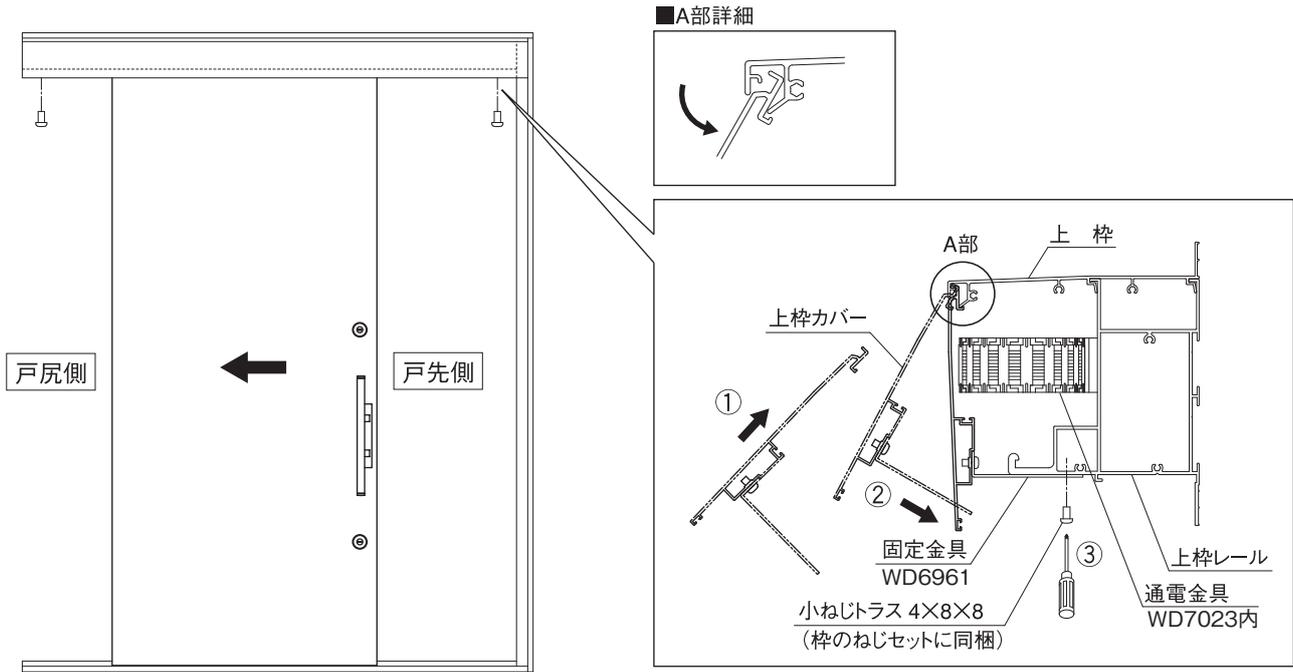
■ 取り付け金具取り付け詳細図



コネクタは奥までしっかりと差し込んでください。差し込みが浅いと動作不良の原因となります。

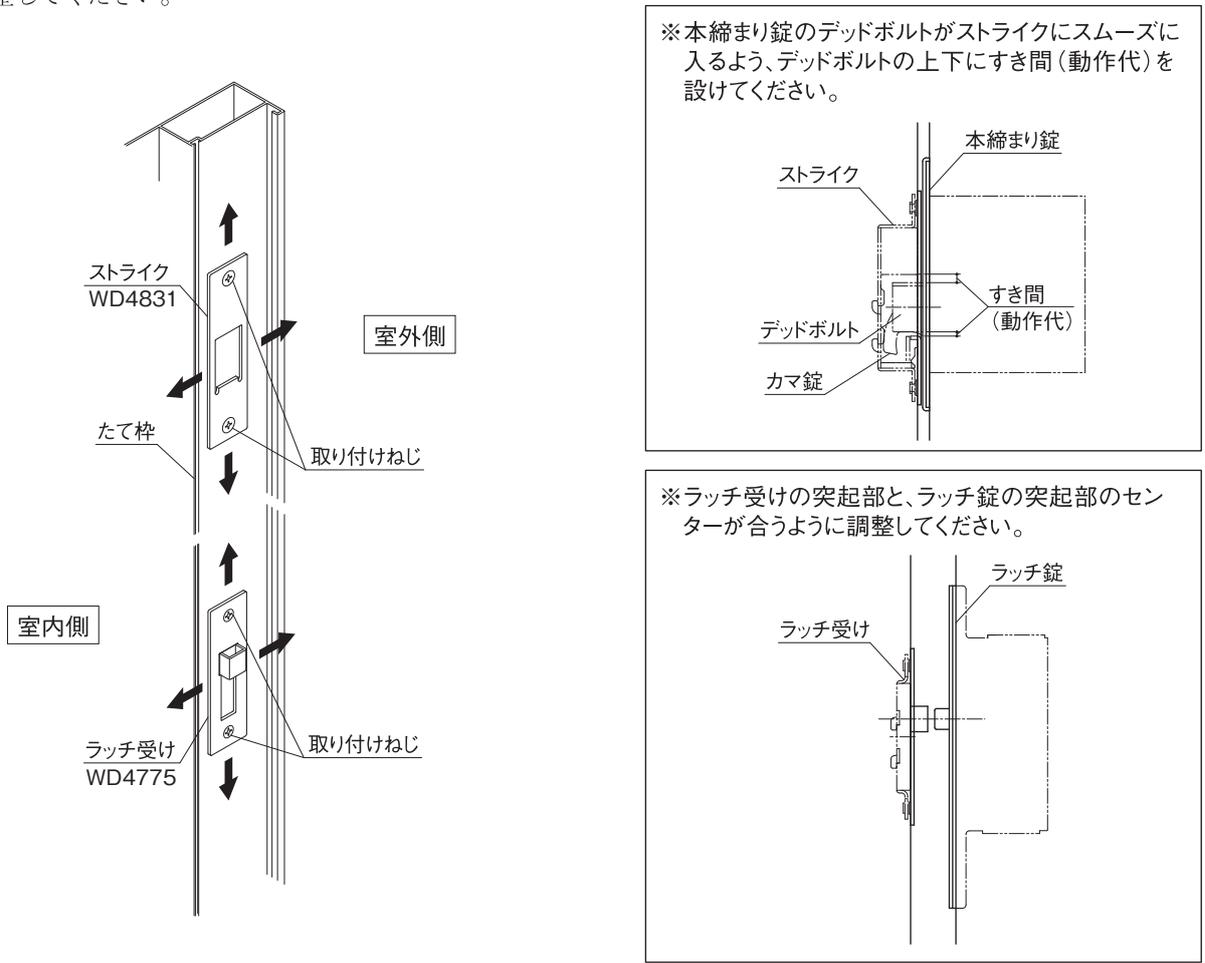
4 上枠カバーの取付

- 下図のように、ドアを枠の中間に移動させ、上枠カバーの上部を上枠にはめ、矢印の方向へ回転させながらはめ込んでください。そして、上枠カバー両端の固定金具を上枠レールにねじ止めしてください。
- 上枠カバーを取り付けた後は、ドアを開閉し、通電金具および配線コードが干渉しないことを確認してください。



5 ストライク・ラッチ受けの調整

- ドアのラッチ錠や本締まり錠が掛かりにくい場合は、ストライク、ラッチ受けの取り付けねじをゆるめ、ストライク・ラッチ受けの位置を調整してください。



※取り付けねじは2~3回程度ゆるめる程度で調整は可能です。取り付けねじをゆるめすぎるとねじがはずれ、紛失のおそれがあります。

取付工事完了後の確認事項

- リモコン操作により、施錠・解錠できることを確認してください。
- キーまたはサムターンで施錠・解錠できることを確認してください。

工場出荷時は、リモコン操作機のコード登録はされていません。
施主様の承諾をいただき、登録および動作確認を行なってください。
リモコン操作機の登録方法は、取り扱い説明書に記載してあります。

電気錠システムの作動不良対応

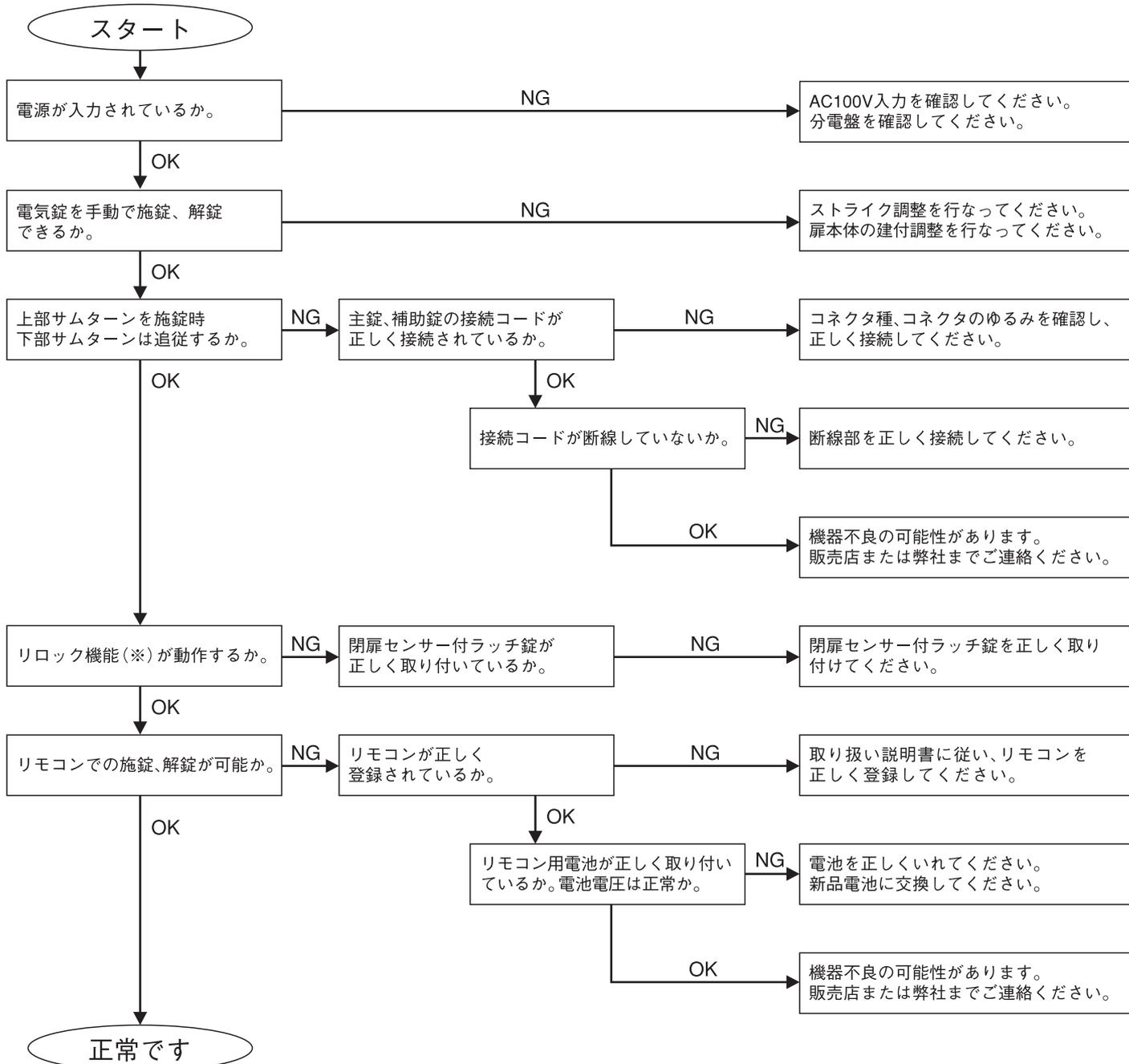
電気錠システムのトラブルは、主に以下の5点が挙げられます。

- 配線接続ミス
- 配線コードの断線
- 電動サムターンの取り付けミス
- 機器の不良
- アルミ建具の取り付け不良

トラブルについては、まず点検チャート(次項)に基づいて原因を追求し、対応してください。
対応できない場合は、弊社にご相談ください。

点検チャート

- 作動不良があった場合に、「点検チャート」に従ってご確認ください。
- 基本的な確認事項を示しております。



※リロック機能とは、誤操作防止のため、閉扉状態のときにリモコンおよび手動で解錠操作を行ってから、20秒後に再度施錠する機能です。

[ドアを開ける、リモコンおよび手動で施錠することでリロック機能は解除されます]